

## 長浜塩田開墾碑

東山代町長浜

佐賀藩祖鍋島直茂公が、慶長13年(1608)藩士成富兵庫茂安に塩田造成を命じ、瀬戸、長浜の二塩田が慶長19年に完工を見るにいたった。これまで佐賀藩には塩田がなく、塩は藩外から買入れていた。長浜塩田は最初奥浦村から着工することとなり、奥浦村の庄屋、中尾氏が多大の協力によって功績があった。(関係文書は歴史民俗資料館に保管) 塩田開墾によって肥前領民は、食塩の需要を満すことを得ると同時に、伊万里、有田に於ける、陶磁器製造に欠くことの出来ないニガリも同時に充足することが出来るようになり、優秀な伊万里焼製造に一役負うようになった。

尚製塩技術は筑前黒田公に請うて、技術者数名の移住を願い、以来三百年間伊万里塩釜の火が燃え続けた。又長浜の割山(わりやま)は塩炊き用材の薪をここに求めた山である。

